

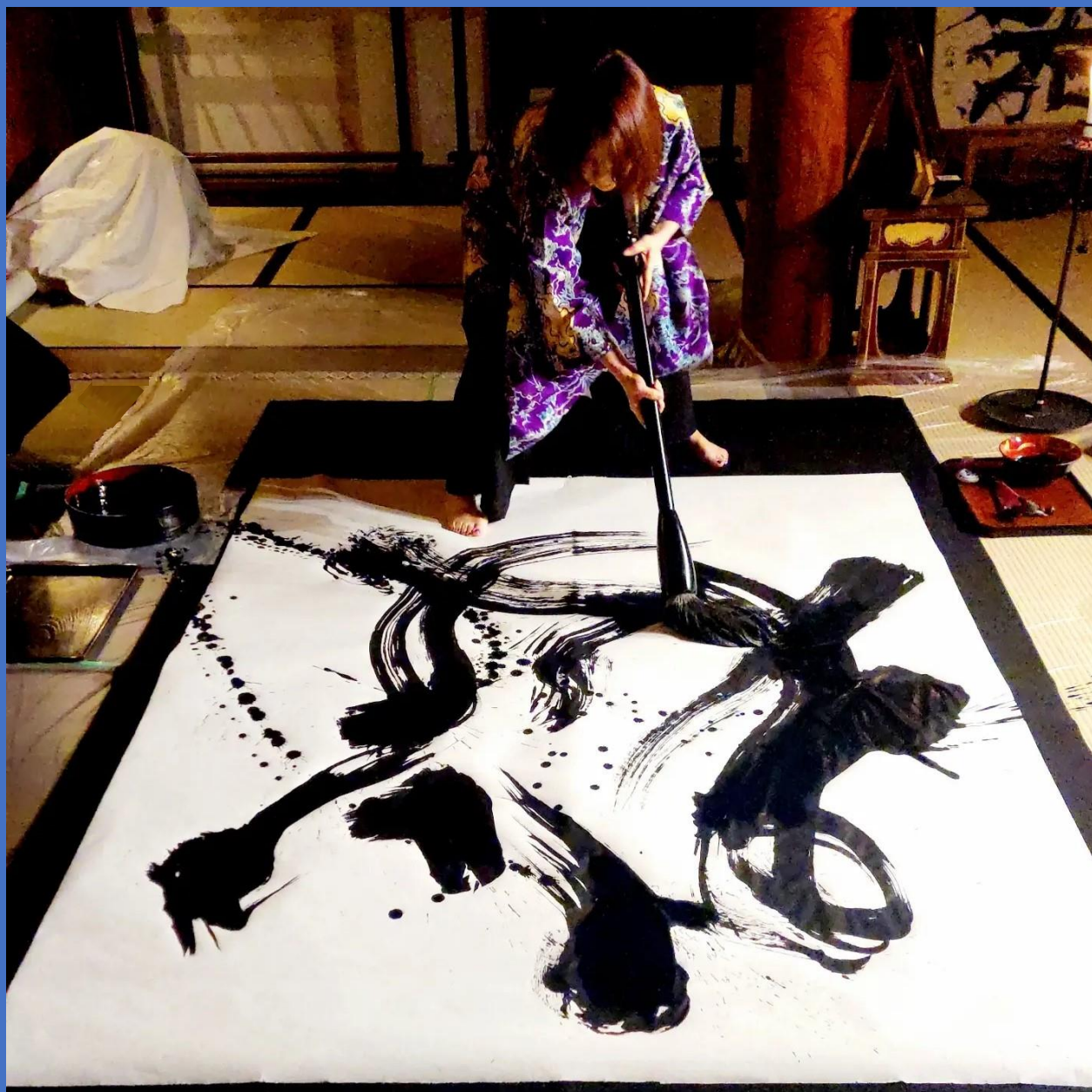


Kizuna

石川県立羽咋高等学校 関東同窓会会報

第18号

2023年6月



東京での活動再開に向け、気合いを込めた桜鱗の一字『桜』

会員ネットワーク

飛翔！活躍する同窓生

部活動紹介「軽音楽部」



「一緒に役員をやりませんか？」 関東同窓会 副会長
東京大学アイソトープ総合センター 特任研究員 川村(近岡)洋子(宝達志水・子浦 39 回生)

副会長の一人を務めております 39 回生の川村洋子と申します。

現在委員会制への移行を推進しています。仕事を一人に集中させず、継続しやすいように整理しています。会員のみなさまも是非お気軽に役員としてご参加いただきたいと思います。ふるさと会に参加したり、いしかわ観光特使として活動したり、石川県人祭に参加したり、いろいろな交流も待っています。

個人情報保護法以降、連絡先を収集するのが困難になっています。本部同窓会と連携を深め、意義のある同窓会をアピールすることで、会員を確保していきます。母校での講演会への人材派遣を推進していきます。

羽咋高校校歌の作詞者である折口信夫博士が没後 70 周年となります。羽咋高校生の心である校歌のもつ深い意味を探るべく折口博士への研究活動を発展させていきます。

私の勝手な想像ですが、関東同窓会は支部の一つではなくて、高校を卒業し関東に出てきた同窓生が集まったまさに原点なのではないかと思っています。これからも羽咋高校同窓会での中心的な役割をリードしていきたいと思っています。

~~~~~



**「つながりを大切に！」 本部同窓会 副会長**  
一般社団法人羽咋郡市医師会 事務局職員 澤田(中條)桂子(羽咋・酒井 41 回生)

関東同窓会の皆さまこんにちは！ 本部同窓会副会長の澤田桂子と申します。関東同窓会の皆さまには、いつも温かいご支援とご協力を頂き感謝申し上げます。

私は、2019 年からご縁あって役員をさせて頂いております。ちょうどその年に娘が入学、さらに卒後 30 年同窓会もあり、長らく疎遠となっていた母校でしたが、おかげ様でここ 4 年程は、とても密に関わっております。

昨年の 100 周年記念事業にも本部役員として準備から携わることができ、自分にとって本当に意義深いものでした。厳かな式典と、和やかな祝賀会。先輩方や同級生、後輩の皆さんと顔を合わせ、交流できたことは本当にありがたかったです。また母校の歴史を振り返ることもでき、この学校の卒業生で良かった、と改めて感じました。

また、100 周年に合わせて制服デザインも新調されました。「ださい」と思っていた制服ですが、娘が自分と同じ制服を着て登校する姿はけっこううれしいものでした。なくなってしまうと寂しいものです。当時、少しでもかわいく着こなそうとあれこれ工夫し手直しした結果、服装検査で先生によく怒られたことも、今では懐かしい思い出です。

私の学年 41 回生は、コロナ禍前に卒後 30 年の同窓会をすることが出来ました。久しぶりに会う先生方、同級生と親睦を深められた貴重な時間でした。

「30 年たったら同窓会」これは羽咋高校ならではの伝統の合言葉。早く復活できる日が来ることを心から願っています。

いままで関東にあまりご縁がなく、ちょっと遠い存在でしたが、昨年息子が東京に就職してからというもの、最近は勝手に身近に感じています。今年はぜひ関東同窓会総会に参加し、会員の皆さまと「絆」を深め、元気をいただけたらと思っています！



**100 周年祝賀会・41 回生の仲間と**



## 第10回 現役部活動紹介 軽音楽部 顧問:高島 剛先生

このたび関東同窓会より原稿のご依頼を頂き大変光栄に思っております。私は、今年度羽咋高校に赴任し、軽音楽の指導経験は1度もありませんが、学生時代に楽器をかじった経験があるので、その経験を活かして本校軽音楽部の顧問を務めさせていただきます。

羽咋高校軽音楽部という部活動の元々は、50年前から存在していたフォークソング部という部活動が由来であると聞いております。そこから、現在の軽音楽部という形に変えて活動を継続しています。実際のところは、練習場所もほとんどないような、体育館の裏の小さなスペースで、細々と練習していたところから始まるとのことでした。そんな中での活動自体も、学園祭で自分たちの演奏を披露できるくらいのもので、現在ほど、世間的な認知度やアニメの題材になるなどの注目度がなかった時期を経て、まあ、脈々と引き継がれながら、活動は続いていきました。



軽音楽部としての大きな転機は、令和元年の全国軽音フェスティバルで、カバー部門の全国でも10バンド程度しか出場できない大阪城大会で、本校バンド「フラッピー」が、堂々の3位入賞の成績を残したことです。それまで学校内でも軽音楽部というと、周囲からも趣味の延長のような活動としてしか見てもらえなかった状況から一転、励ましの言葉を頂いたり、練習環境も少しずつ良くなったりすることで、益々活動が活発となり、現在の軽音楽部は1年生14名、2年生4名、3年生15名の他の部活動にもない大人数で、皆が意欲的に活動しています。

さらに、今年度は、全国総合文化祭東京大会に晴れて出場が決まり、念願の『全国総文』への切符を手にして、東京中野サンプラザで演奏を披露することになりました。

それまでも『全国総文』への出場機会があったにもかかわらず、出場に至らなかったのは、何よりもコロナ禍による影響からでした。今回もコロナ禍であることは変わらず、直前まで感染状況に注意を払



【東京:中野サンプラザにて】

い、自分たちも感染対策を徹底しての出場であったことは、出場できなかった以前に比べれば、大変恵まれた状況になったと感謝しています。

実際、東京中野サンプラザといえば、一流のミュージシャンも演奏するような大ホールで「自分たちが出演するなんて、人生でも2度とない経験をさせてもらった」と生徒は感じています。今回の演奏では、順位もつかず、賞をもらうこともなかった演奏でしたが、私が思うのは、その経験は生徒たちの3年間の努力を形に出来てかけがえのない経験ができたこと、そして彼女らに続く後輩たちに向けた次なる目標となってこの軽音楽部がより一層充実した部活動になると信じています。

今回の『全国総文東京大会』に出場するにあたり、関東同窓会の方々はじめ、多くのOB・OGや保護者の方々の多大なるご支援とご協力をいただいていることを肌で感じまして、改めて厚く御礼申し上げます。

そして最後になりましたが、関東同窓会のこれからの益々のご発展を祈念申し上げます。



関東同窓会より副会長赤池様が、宿泊するホテルまで足を運んでくださり、飲み物の差し入れと激励を頂きました。本当に感謝いたします。



## 講演会 演題「折口信夫と藤井春洋の父子物語」

講演者 羽咋市折口父子記念会

会長 藤田<sup>とよ ふみ</sup>豊郁（26回生）羽咋・四柳

大阪生まれの折口信夫が、今は能登羽咋に眠る。そこには、天賦の才能を国文学と詩歌に発揮し、近代日本に萌芽した民俗学の新世界に足を踏み入れた学者歌人折口信夫と、学者として歌人として、折口後継を嘱望されながら南海の孤島で玉砕した羽咋出身の藤井春洋との、20年余りの物語がある。

### 【折口信夫の生い立ち】

折口信夫は、明治20年(1887)2月11日、大阪府木津村(現大阪市浪速区)に、医業と生薬・雑貨販売を兼ねる折口家の四男に生まれる。幼少3歳時に百人一首を暗唱、中学時には日本初の近代的国語辞典「言海」を愛読書とする。やがて府立天王寺中学から東京の国学院大学に進学。国学院大は、古典研究と神職養成の機関として明治政府が設けた皇典研究所によって設立された大学で、折口は国文学を専攻。卒業後、紆余曲折を経て、大正10年9月に国学院大学教授、昭和3年4月に慶応大学教授(兼任)に就任した。

折口は大学で教鞭を執る一方で、『遠野物語』で知られる柳田国男を師と仰ぎ、日本における民俗学の創始者の一人として、民俗調査のため各地を旅した。また青年時から作歌にはげみ、長じて大正6年2月アララギ同人となり、釈道空の歌名で多くの歌を発表する。



折口 信夫



気多大社若宮社前にて  
(昭和3年8月)

### 【折口信夫の羽咋初訪問】

昭和2年(1927)6月、折口は、民俗採訪のため教え子とともに能登半島を旅する。そのとき、国学院生で、一ノ宮村(現羽咋市)出身の藤井春洋の生家に宿泊。近くの気多神社に参拝した折の連作は、「気多はふりの家」と題され歌集に収められている。後に、気多境内に、その中の一首が歌碑に刻まれる。

気多の村 若葉くろずむ時に来て 遠海原の 音を聴きをり

また羽咋滞在中、旧制羽咋中学で講演を行う。「若衆の起源」と題した講演は学生たちに好評で、「こういう話はまた聴きたいものだ」との一文が当時の校内誌に残る。



藤井 春洋

### 【藤井春洋の生い立ち】

藤井春洋は、明治40年(1907)2月28日、羽咋郡一ノ宮村寺家で医業を営む藤井升義の四男に生まれ、一ノ宮小学校から金沢の小将町高等小学校に転じ、その後金沢一中を経て、大正14年4月、国学院大学予科に進む。

入学間もなく、学友らと短歌結社「鳥船会」を創設し、折口教授に指導を仰いだことから師弟の結びつきが始まる。

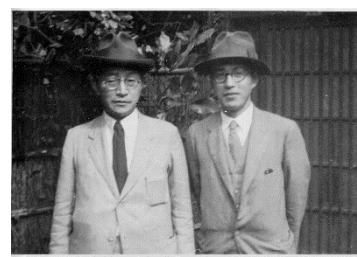
折口は、羽咋初訪問の翌年8月、再び羽咋の藤井家を訪れ、帰京ののち、内弟子として春洋を迎え入れる。

### 【折口と春洋の同居生活】

春洋は、折口の身の回りの世話をしながら、師の講演や民俗採訪の旅に同行する。やがて折口の学問と短歌の後継者として期待される存在となり、昭和16年4月、国学院大学予科教授に就任する。

折口信夫と親交のあった金沢出身の詩人・室生犀星は、師弟関係以上に仲むつまじい二人と間近に接し、その様子を次のように書いている。

「藤井春洋は……、道空のいふままに仕事をし、二人は兄弟のやうに仲善く、或る時はわかい二十三の妻と、四十二歳の男とが暮らしてみたのである。藤井春洋は眼は大きくいきいきしてゐて、頬はいくらかあお白く色の変わらない、がっしりした体格を持っていた。講演、講義、町の食事、歌舞伎、調査旅行の何処にも藤井は連れ立つた。」 室生犀星著『我が愛する詩人の伝記』より



大井出石の折口宅前で

(昭和10年頃)



## 【折口春洋との別れ】

折口は藤井春洋と同居することで生活の安定を得て、国文学や民俗学の重要な論文を発表し、また釈空として活発な作歌活動が続けることができた。

しかし時代がそれを許さなかった。日中戦争から太平洋戦争へと続くなか、昭和18年9月、春洋に召集がかかる。折口は、春洋を養子に迎えることに決め、手続きを急いだ。昭和19年7月、ようやく入籍が叶い「折口春洋」となったとき、春洋は南海の硫黄島にいて、そのまま帰らぬ人となる。戦いのさなか、島から送られてきた粗末な紙の便りには、検閲にかからぬよう配慮された文言とともに、父折口へのいたわりがにじんでいた。



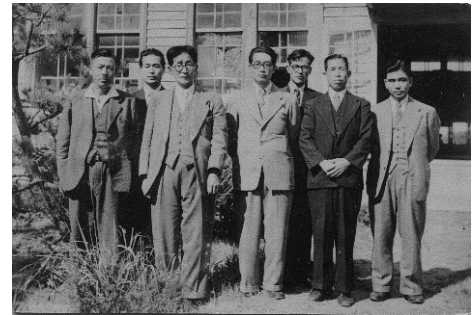
硫黄島全景

## 【折口が羽咋に建てた父子の墓】

折口は、硫黄島での悲惨な戦いで果てた春洋を思いやり、昭和24年7月、寺家町に墓を建て、春洋の軍刀・軍服を納める。墓石には、自ら認めた次の文言を刻む。

もつとも苦しきたかひに 最くるしみ死にたる  
むかしの陸軍中尉折口春洋 ならびにその父信夫の墓

この墓の落成時に、折口は、羽咋高校で開かれた国語研究会で講師を務め、寺西学校長から校歌作詞の依頼を受ける。昭和26年3月校歌完成。その年の10月、羽咋を訪れた折口は高校に立ち寄り、生徒の歌う校歌を直に聞く。これが最後の羽咋訪問となる。



羽咋高校を訪れた折口一行  
(昭和26年10月)

## 【そして折口信夫、羽咋に眠る】

昭和28年(1953)9月3日、学者として歌人として数多くの業績を残し、折口信夫は66歳で永眠。遺骨は、東京で百日祭を終えたのち、春洋の眠る寺家の墓に納められる。

春洋生家の藤井家では、毎年9月3日に周年祭が開かれている。かつては折口の教え子たちがたくさん集い、恩師の思い出に花を咲かせ、遺影に向かい、この1年に取り組んだ業績を師に報告する者もいた。その中には高名な学者や歌人も少なくなかった。



折口父子の墓

## 【折口没後70年と国民文化祭】

令和5年は、折口没後70年の節目の年であり、羽咋市では、9月から10月にかけて折口記念展示やシンポジウムを予定している。また、国民文化祭石川県開催(いしかわ百万石文化祭 2023)も予定されている。

折口信夫は文化人として一般的知名度は高くないが、その独創的な折口学と呼ばれる学問は、現在でも多くの人の研究対象になっている。地元に住む者としては、学問とは別に、羽咋に墓を建てるに至ったいきさつ、羽咋高校の校歌を作詞するに至った経緯などは、ぜひ後世に伝え残したいもの。

くわしい内容は羽咋市ホームページを参照いただき、お時間があればご観覧いただきたい。



藤井家で開かれる折口周年祭



写真：北國新聞

## 【関東同窓会がきっかけで、折口信夫直筆資料が羽咋市に寄贈される】

資料類は折口の直弟子で、戦中戦後の苦しい時期に折口と同居し生活を支えた、東京学芸大教授米津千之(よねずせんじ 1912～2014)氏が所持していたものである。

今回の寄贈に至るには関東同窓会の日頃からの折口顕彰への思いと七尾高校関東同窓会前会長木下嘉平氏との親交があつてこそといえる。

米津氏の遺族から木下氏の知人が資料を譲り受け、木下氏に取り扱いを一任。木下氏と赤池会長が相談の上、國學院寄贈の方向ですすんでいたが、報を知り、藤井家の資料も殆ど大学に所蔵になっている現状をふまえ、"是非羽咋市に"と懇望し、牧山郷土資料館長と上京し、5者面談で羽咋市寄贈に合意した。翌日10月28日椿山荘での「いしかわ県人祭」で岸市長に朗報を伝える。未発表のものも多く、羽咋市ならびに折口父子記念会にとっては貴重な資料であり、取り纏めて戴いた関東同窓会には感謝の念に堪えない。



寄贈関係者一同  
いしかわ県人祭：椿山荘にて

## 飛翔！ ～活躍する同窓生～

書家：桜<sup>おう</sup>鱗<sup>りん</sup>（本名：笠間千弘 49 回生 中能登・金丸）



### ❀ 個展『白黒花火～第4章～「されど雑草」』in 東京 ❀

今回の個展は私の新たな作品群「されど雑草」シリーズの東京初披露の機会。個展「されど雑草」は昨年秋に地元石川でも開催し、ご来場頂いた多くの皆様からも大変ご好評を賜りました。

東京開催においても羽咋高校関東同窓会の赤池清会長、中村さん、大崎さん、松波さん、赤池典充さんらを始め、私の20年以上に及ぶ東京での生活で繋がりを頂いた様々な方々がご来場下さり、自らの歴史を辿るような感慨深い個展となりました。

個展の様子は北國新聞にも掲載され、2年半ぶり4度目の東京個展、書家として6度目の個展もお陰様で無事成功を収めることができました。

### ❀ 「されど雑草」誕生にある背景 ❀



#### 【 酔 夢 】

拠点を上げた直後のコロナショックが、私に変革のチャンスを与えたのです。

自然豊かな故郷に身を置いていたからこそ見出せた野草を使った“葉拓”デザインと、自ら長年培ってきた書の技術の融合。その完全オリジナルのスタイルに辿り着いた私は、そこに一筋の光を見ました。書道家人生を賭けてみたいと思える自分だけの表現にようやく出逢えたのです。

昨年の羽咋高校100周年記念においては、私のこの「されど雑草」作品を記念品のデザインにも起用して頂きました。

今後の展望は、この作品群の海外展開。更に作品の精度を上げるべく精進あるのみです。



### ❀ 書家としての活動 ❀



一人の表現者、アーティストという姿勢を守り抜く中で、様々なお仕事  
の機会を頂けていることは、本当にありがたいことだと思います。

個人や企業様からの文字依頼や、イベントや式典での奉納揮毫(パフォーマンス)、講習等での講師依頼など、「書く」「見せる(魅せる)」「教える」の全てにおいてお仕事をさせて頂いています。

「久保田」で知られる朝日酒造の日本酒「朝日山」シリーズは、桜鱗が手掛けたものが多く出ております。地元でも和菓子パッケージや日本酒ラベルなど、様々な場面で桜鱗の書に触れて頂ける機会が増えたことをとても嬉しく思います。



お仕事のご依頼・  
ご相談はオフィシャル  
サイトから



飛翔！ ～活躍する同窓生～

くくのち設計事務所代表:建築士 上田 寛 (55 回生 羽咋・四柳)



故郷の  
景色を堪能する宿が  
神子原で始動します。

くくのちステイ  
KUKUNOCHI stay

2023年6月オープン

住 所：石川県羽咋市神子原町ヌ62-1  
問い合わせ：kukunochi.stay3586@gmail.com



QRコード  
詳細はInstagramで確認できます

当施設は、ゲストハウス（素泊まり・相部屋）、カフェバー・シェアキッチン・子ども文庫 etc の複合交流施設です。「泊まるだけではもったいない」そういう施設に地域の方々とみんなで育て上げる施設になりますように。“くくのち”とは、日本神話に出てくる木の神様のこと。木とともに生きてきた人の原点を見つめる機会になれば。



令和4年度

## 羽咋高校関東同窓会 総会

令和4年9月24日(土)

アルカディア市ヶ谷(私学会館)

令和4年度は、Zoomを併用し3年ぶりに総会・講演会・懇親会を開催した。会場には44人、Zoomでは27人の計71人が参加した。

岡野勉相談役(9回生)の開会の言葉の後、赤池清関東同窓会会長(20回生)が、「過去の良い点、悪い点も踏まえて、今後も母校の発展に寄与できることを積極的に取り組んでいきたい」と100周年を迎える母校への想いを述べた。

轟千栄子同窓会本部会長(27回生)、梅本浩照校長(35回生)が、高校の現状と100周年記念式典・記念事業について紹介した。栗原富夫関西支部長(24回生)、横川浩三石川県東京事務所長、木下嘉平七尾高校関東同窓会相談役、岸博一羽咋市長(25回生)、寶達典久宝達志水町長(48回生：メッセージを代読)が祝辞を述べた。

講演会は、藤田豊郁羽咋市折口父子記念会事務局長(26回生)が、「羽咋高校と折口信夫」と題して、羽咋からZoomでパワーポイントを使用して行った。(内容については、本誌P4・5をお読みください)会場には、木下嘉平氏が、折口氏の弟子、米津氏から譲り受けた都内の女性より借りてきた折口氏の資料が展示された。

懇親会は久しぶりの再会となったために、方言が飛び交う笑顔いっぱいの楽しい会となった。Zoom飲み会も初めて行った。自己紹介の後、お互いに質問をし合い、交流を深めていった。

会場に参加できない方にも楽しい会となるように、Zoomの活用を工夫していきたい。最後に、折口氏作詞の校歌を静かに聴き、総会は無事終了した。

二次会は、久しぶりの懇親会では話が尽きなかったのか、30名が参加した。いつまでも話が終わる様子がなく、2時間の予定が3時間ほど和やかに歓談し、「また来年も元気に会いましょう」とお開きとなった。



展示された折口信夫氏の資料

### 令和3年度会計報告(令和3年9月1日～令和4年8月31日)

| 収入の部        | 金額             | 内 容                  |
|-------------|----------------|----------------------|
| 総会会費        | 0              | 総会のための、会費なし          |
| 寄付金         | 30,000         |                      |
| 本部助成金       | 200,000        |                      |
| 広告料         | 204,123        | 絆(名刺広告)              |
| 預金利息        | 4              |                      |
| 前年度繰越金      | 426,433        |                      |
| <b>収入合計</b> | <b>860,560</b> |                      |
| 支出の部        | 金額             | 内 容                  |
| 総会会費        | 91,523         | 会場費、飲料費、スクリーン代、吊看板代  |
| 会議費         | 0              | 役員会はZoomで開催の為、会場使用せず |
| 事務費         | 76,753         | 事務消耗品                |
| 通信費         | 114,236        | 切手、はがき、レターパック、宅配便    |
| 本部・支部交流会費   | 20,540         | 交通費補助、新聞広告代          |
| 会報費(会報17号)  | 209,000        | 絆制作費・印刷費・送料          |
| <b>支出合計</b> | <b>512,052</b> |                      |

【次期繰越金】348,508円

860,560(収入合計)－512,052(支出合計)



# 会員ネットワーク

近況報告をして頂き、次の人にリレーすることで、会いたい人 知りたい友の消息 など 会員の交流促進に役立てたいと思います。



## 我が道を歩む 第6代関東同窓会会長・東京電機大学名誉教授

里見 忠篤 (8 回生) 羽咋・中川

日本人の平均寿命は世界一、もはや“余生を送る”などと甘えてはいられない。定年後の暮らし方は人それぞれだと思うが、私は自分の経験を生かせる道として「もの造り」の道を今なお突き進んでいる。私は、手先は器用だと思っているが、暮らし方選択に至っては極めて不器用な人間らしく、他に長続きする趣味も見当たらない。定年退職後取り組んできた技術開発がひと区切りついたのでその概略を述べさせていただきます。

テーマは「バイオマスを燃料とする発電装置の開発」である。先ず熱エネルギーを回転エネルギーに変換する機械要素として一對の楕円歯車に着目した。この楕円歯車は低い蒸気圧で極めて滑らかに回転する性質を有する。附写真はタービン部の第3試作品で一對の楕円歯車を内蔵している。発電要素はバイクの発電機を用いた。1次試作の筐体はアルミニウム製とした。同時にドラム缶利用のボイラーを製作し蒸気駆動を試みた。テスト結果は大失敗であった。アルミニウムは熱膨張が大きく蒸気式タービンの筐体として不向きであることを学んだ。2次試作は膨張が比較的小さいステンレス 410 を選んだ。SUS410 は精度出しに問題があることを学んだ。3次試作は SUS304 とし、機械加工のし易さを考慮した形状とした。一對の発電機を主軸の両端に取り付け、且つ復水戻しポンプ付きで纏めた。熱変形は予測しがたく正常に作動するまでに随分時間を費やした。理論計算では 1800rpm で 300W 程度の出力のものである。完成した発電装置の下部はボイラー内蔵型燃焼炉、中段にタービンユニット (写真)、上部は復水装置で纏められている。幸い特許を取得できた。(特許-5918283)



第3試作タービン



## 元服式を懐かしむー能登のヨボシゴ習俗

プロメッサ総合研究所会長

ベルカント歌手・作家

谷川須佐雄 (19 回生) 宝達志水町・吉野屋

中世の武家社会では仮親を烏帽子親に定め、元服する子を烏帽子子と呼んでいました。能登一帯でも烏帽子親・子が訛ったヨボシオヤ・コがあり、私も 19 歳でヨボシゴになっています。この習俗はオヤがコを庇護し、コはオヤに終生孝養を尽くすという擬制的親子関係です。50 年以上も前の話ですが、名古屋で浪人中だった私も急遽呼び戻されて年末 30 日に元服式を挙げています。

この日、古い茅葺の屋敷を訪れると、薄暗い座敷に酒席が用意されており、そこで私はオヤから盃を受け、三人の兄弟とも盃を交わしました。やがて『鶴亀』の謡とともに一升入りの大盃が回され、みなで民謡など唱って夜を明かすのですが、私も促されて『出船の港』や『鉾をおさめて』を唱いました。この勇壮な祝歌はオペラ歌手藤原義江の十八番で、後年私がベルカント歌手になる契機になっています。上京後、十年の修業を経て活動歴は四十数年になります。

翌日、母が在所中に饅頭を配って元服式を終えたことを告げると、周囲から祝福された記憶があります。ヨボシオヤはコを援け、コはオヤに無償の労働力を提供する関係は生涯続きます。式後ヨボシゴはオヤや兄弟と親戚になり、この擬制的家族は季節ごとに野遊びや温泉旅行を通じて絆を強めます。煩わしい反面、私の結婚式ではオヤが仲人をし、父母の葬式ではヨボシ親や兄弟の係累が葬儀を取り仕切ってくれました。故郷を離れて知己が減ると人々の温もりが身に沁みます。母もオハグロ親を見送り、自らも親の係累に見送られています。



## 「大人の部活となった関東同窓会 役員会」

元 日本ヒューレット・パッカード (株) 南 雄二 (20 回生) 志賀・高浜

20回生の南雄二です。現在、関東同窓会で会計を担当しながら、IT 活用を推進しています。

2020 年のコロナ禍を機に、まず都内で会議室を借りて集会形式で行っていた以前の役員会をオンライン形式に変更しました。それが次に紹介する“思わぬ変化”に繋がりました。

### 1. 役員の「LINE グループ」活用で、日常的な意見交換が非常に活発になった

ここでの気軽なチャット(おしゃべり)は、皆が自由に発言できる機会を生み、そこから忘れかけていた校歌の作詞者「折口信夫」先生への理解が深まり、改めて先生と「羽咋の地」を繋げた“縁”と、その格調高い歌詞に込められた深い内容に、皆驚きと感動をもらいました。それが役員の間から次々と新しい発想とアイデアを生み出すきっかけとなり、「折口信夫」が羽高生を繋ぐ“キーワード”になると気付きました。

### 2. 「Zoom 役員会」導入で参加率が格段に向上し、さらに個人と会の費用負担が減った

スマホ(パソコン)から Zoom 会議への参加方法を覚えることで、スマホの新しい活用範囲が広がった役員も多いです。(全員がちょこっと IT リテラシーの向上を経験)

### 3. 「絆」の副題を「会員ネットワーク」とし、内容を関東在住の各世代(9回生～54回生)からの投稿記事を中心にした。

これまでは総会・懇親会の写真集が中心でしたが、社会の様々な分野で今を生きる羽高生の経験を自分の言葉で語ってもらう記事は大変興味深いですし、後輩には大いに参考になると考えます。

### 4. 印刷した冊子版「絆」に加えて、PDF データ版「絆」も用意した

スマホや PC で簡単に閲覧でき、同級生へ気軽にメール転送できるようになりましたので、同窓生への拡散が期待できます。(データ版は無料でコストがかからない)

さらに動画や音楽付きのスライドショーなどへも展開中。

「関東同窓会の役員会」は、16回生から55回生(顧問・相談役は除く)の多世代(約30名)で運営しており、“活気あふれる大人の部活”として自由なコミュニティーを楽しんでいます。



オンライン・ルームを借りて  
対面+Zoom 役員会



健康体操、元旦の航空公園での新年会

## Routine Work の大切さ

元青山学院大学経営学部教員

元女子栄養大学教員

大崎繁一 (21 回生) 宝達志水・上田出

高校・大学教員時代の土日、夏休みや冬休みを通じて30数年続けた合気道の稽古と指導は7年前に膝の大けがをしたことで突然、終わりにになりました。杖をつきながら大学の授業にむかう日々は、膝の痛みと昨日まで当たり前でできていた稽古や指導が出来ない喪失感で悶々として過ごすだけの毎日でした。

1年経って、公園でリハビリのために、びっこを引きながらラジオ体操をやっていたときに、近くの健康体操のサークルの指導者に声をかけられました。その人は84歳だと聞いて、その年までできるのかと思いました。膝が悪くてもできますよとも言ってくれました。それが縁で健康体操をはじめました、跳んだり跳ねたりが一切ない運動は地味で単調に見えるけれども、確実に体と心をいやしてくれました。

若くても50代、主体は60代、70代、80代の人たちは熱心で、冬でも夏でも、雨が降ろうとも風が強かろうとも元旦から大晦日まで毎朝、公園にやってきます。そのうちに体操の後で、いろいろとよま話をしながら家路につくようになり、元旦には公園で初日の出を見ながら酒を酌み交わす楽しみもできました。

しかし元気とはいえ、高齢者ぞろい、突然来なくなる人も毎年出てきます。だからこそ毎朝の「一期一会」の体操がありがたく、愛おしいものに感じられます。昨日まで元気だった人も膝が動かなくなったり肩が回らなくなったり、それでも動けるうちは出かけてくる、その姿勢には頭が下がります。

昨年からは健康体操の指導をする立場となり、毎朝 4 時半に起きて公園に向かいます、おかげで毎晩飲んでいたお酒も禁酒する日が多くなりました。ボケ防止のために詰め将棋と株価のチェックをしてから、10分のラジオ体操と30分の健康体操に出かける日々はルーティンワークの大切さとありがたみを感じさせてくれます、おかげでとても楽しい毎日を過ごしています。





## 「ぶらり能登」の活用で知ったこと、思ったこと

KW リアルエステート 中村 頼蘭 (25 回生) 宝達志水・向瀬

コロナの始まりの年に定年、桜前線に乗って花見旅行の計画断念、自宅引き籠り3か月で足腰ガタガタ、内臓ボロボロ、頭の回転遅くなり、これでは元気で100歳までの人生目標達成できないことを悟りました。43年間、建築・不動産の企画提案営業をやってきましたので、その延長で不動産のコンサル及び不動産仲介業を開業し営業の外回りで足腰を鍛え、目標達成の為に“だらだら食事”をやめました。

ここからが本題です。営業ですから毎日数人の方とお会いする訳ですから効率よく自己紹介する為、会うとすぐに『ぶらり能登』を渡して「お土産です。私、能登の出身なので」と説明し「能登は良いところだ」と切り出すと、「行ったことがあります。能登はどこにあるのですか？ 金沢ですよ」と様々な反応が親しげに戻ってきます。2分ほど能登談義をして商談に入るのですが、おかげさまで、昨年は200冊位使わせていただきました。今年は当初300冊位使わせて頂こうかと思っていたのですが反応が良いので、500冊位に目標修正しました。良い話では群馬県館林市の不動産協会の支部長が忘年会で越前ガニを福井で食べる企画していたのを能登に変更してフグも食べる企画に変えてくれました。良い話ばかりではなく、能登がどこか解らない人が相当程度関東にはいることが判明しています。金沢は行ったことがなくても知っています。私のイメージが正しいかどうかですが、一例で名古屋は知っています。行ったこともあります。知多半島は聞いたことはあるがどこか解りません、程度と同じかもしれません。ここを何とかするために能登を京都並にブランド化(有名に)する必要があります。全てに能登を付けての総力戦です。能登の和菓子、能登の祭り、能登の花火、能登の温泉、車は能登ナンバープレート、能登の魚、能登の鶏、能登の日本酒、能登の織物、能登寒ブリ、能登フグ、能登のホタルイカ、能登美人、すでに能登牛、能登ワイン、能登井もあります。なんでも言った者勝ちです。



## 母校のためにできること

元羽咋高校校長 上杉 直人 (26 回生) 羽咋・東川原

私が大学進学のために上京したのは、昭和49年のことでした。親は、県外の大学に行くことに反対でしたが、大学卒業後に私の夢である石川県の教師として戻ることを条件に、教育系の大学に進学しました。

私は当時、小平市に住んでいました。大学生活はとても充実し、東京の空気や多くの先生や友人との関わりは、私の人間形成に大きな影響を与えてくれました。

大学卒業後は、故郷の公立学校の教員に採用され、定年退職まで教職に従事しました。縁あって母校にも通算16年間勤務しました。特に、教員最後の2年間、母校の学校長を任されたことは、とても感慨深いものがあります。

校長時代に、関東同窓会の皆さんに、学校や生徒のためにいろいろご尽力いただいたことに対し、改めて御礼申し上げます。

羽咋高校は現在、過疎化・少子高齢化の影響を受け、普通高校になって以降、生徒数はピーク時の1学年360人から160人に減っています。生徒の減少は、行事、部活動、進学等の学校生活に留まらず、地域社会にも大きな影響を及ぼします。しかし、羽咋高校は、先生と生徒、保護者、同窓会が丸となって、ピンチをチャンスに変えようと頑張っています。本部同窓会や関東同窓会では、3年生全員に合格ハチマキならぬ合格祈願マスクを寄贈し、生徒を励ましています。私の娘は、いただいたマスクを、今も大切に保管しています。

私も一人のOBとして、母校のために少しでも恩返しをしたいと思っています。同窓会の皆様も、これまでに培われた知見を活かし、積極的に母校と関わりバックアップしていただければと思います。

最後になりましたが、関東同窓会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。



合格祈願マスクを手にする生徒  
写真:北國新聞



## 50年を振り返って、～学則不固、日々是好日～

元 旭化成エレクトロニクス(株)

取締役兼 常務執行役員 浜下 浩一(高27) 志賀・高浜

1975年卒業からもう半世紀。あの頃の仲間達はどうしているのだろうか。会社生活もほぼ定年のはず。もう後半人生のスタートを切っているのかな? 久々に会ってワイワイ昔話でもと思う今日この頃です。

昨秋は関東同窓会にリモート参加しました。久しぶりに懐かしい姿を拝見し、講演会や Zoom 飲み会を楽しみました。Zoom によるリモート同窓会は本当に便利です。コロナ禍の壁を破り、羽咋までの距離も縮めてくれました。

私は大学で機械工学を学び、就職後は電気屋に転向。今話題の半導体分野にてアナログ LSI の回路設計に従事してきました。例えば、PC やスマホで Zoom を使う際、皆さんの音声(アナログ信号)をデジタル信号に変換したり、受信したデジタル信号をアナログ信号に戻してスピーカーを鳴らしたり、というのがアナログ LSI の機能になります。機械屋が電気屋になるのは大変ですが、どちらも物理学の一部です。数学をベースに論理思考をしっかり使えば、なんとかなるものです。

“学則不固(学べば則ち固ならず): 学び続ければ頭を固執させず柔軟に維持できる”

良い言葉ですね。日進月歩の半導体業界では一瞬でも気を抜くと負けます。常に最新情報を探知して一歩先に行かねばなりません。小さな会社ですが10年ほど CTO(最高技術責任者)として、国内外の大学やベンチャーとの提携。海外派遣や学会での若手育成等、色々やっている内に国内外の友人もたくさん作れました。

昨春に完全リタイヤ、出口治明氏の言う“人・本・旅”にて人生後半を最設計中。大学や学会のリモート講演会、読書、美術館～都内散策、ジムでの体力維持にて、脳みそと身体に刺激を与えています。

最近好きな言葉は、“日々是好日”、“吾唯足るを知る”です。またいつか同窓会でお会いできる日を楽しみにしております。



エジプト  
ルクソールにて

## 中今を生きる

海外添乗員歴 36 年 松波 久美子(32 回生) 宝達志水・子浦

神道の世界でよく用いられる言葉で、今、私達が生きている正にこの瞬間が「中今」と言う事です。たった一度しかない人生を後悔するのではなく、失敗や負けることを恐れず、苦難や挫折を受け入れるという発想の様です。

今は、世界的にも社会情勢が不安定で、いつ何が起こるか分からない状況である為、心が、未来への不安でいっぱいになっている人も多いかもしれません。過去を振り返る必要がなく、大事な今は今。たとえ地震が起ころうと、すでに終わった過去の事で、頭がいっぱいになると、後悔や怒りになってしまいます。生きている瞬間に集中し、無心で感謝や感動などをするようになると「中今」の状態になる。そうするとネガティブな感情は、生まれてこなくなると思います。

私は、大学卒業後、海外の添乗員の仕事をしてきました。文化、習慣、宗教も違う、見知らぬ国で見知らぬ人々と出会い、様々な体験をしてきました。

例えばエジプト、いわば日本と対極の国です。エジプト人は「インシャラ」。直

訳すれば「神の思し召しのままに」です。「なんとかなるさ」とか「なるようになるでしょう」みたいなノリで、ごく日常的に用います。

彼らはとても情に厚く、深い寛容をもっています。過酷な自然や運命を受け入れる覚悟を持ち合わせ、イスラムの戒律を守り、神を畏れ、感謝して生きています。私もエジプトマインドになり、彼らを理解した上で交渉に入ります。チップが物事の潤滑油となる国です。日本のアメ、たばこ、ボールペンなども喜ばれました。今思うと「中今」で生きた瞬間が多かったと思います。コロナになり、海外旅行は完全にストップ!

いろいろ見て聞いておもしろかった。全てに感謝しています。



アブシンベル大神殿





### 嘉應大学での授業風景

## 人生半ばでギアチェンジ！

元中国広東省嘉應大学日本語学科講師 岩城 一美（高32）  
現アジア・アフリカ語学院日本語教育学科講師 羽咋・本江

「13H 担任の川崎先生、ごめんなさい。お世話になりました」  
勉強は嫌いなわけではなかったのに、高校に入学した途端に担任の先生の数学で躓き、超低空飛行の成績で私は羽高をかううじて卒業した覚えがある。同級生たちが皆熱心に受験勉強に励む中、私は大学受験から逃げて安易に専門学校へ進学した。

学校ガイド本でたまたま見つけたアジア・アフリカ語学院（以下略称:AA）という、羽咋では認知度ゼロの学校を選んだ。AA はアラビア語学科を筆頭にアジア、アフリカの各国語が学べる異色の学校で、私が入学した中国語学科のクラスメートも癖のある面子が揃っていた。

私はなんと現在 AA で日本語教育に携わっているのだが、卒業してすぐに日本語教育の世界に入ったわけではなく、日本語教師を目指したのは45歳の時である。先日 NHK ラジオの番組で、昭和女大理事長坂東眞理子氏の「人生ギアチェンジ」という話を耳にしたが、私は45歳で人生の舵を切り、車の運転に例えれば、オートマからマニュアルに乗り換え、自分でシフトノブを操り走り始めた。私は AA で中国語を習得したので、中国での日本語教師を目標にした。国外で教えるには学士号が必要なため、まず通信教育で文学士を取得した。仕事と家事と通信教育課程での大学の勉強という三つ巴生活を経て、50歳で中国の大学へ日本語教師として赴任した。53歳で一旦帰国し東洋大学大学院へ進み、文学修士を取得した後中国へ再度赴任し、定年を機に帰国、現在に至っている。

私は高校生だった10代の後半を、煩わしい、つまらないという理由で勉強を投げ、手を抜いて過ごしてしまった。しかし、人生半ば過ぎてからの15年間で、自分を褒めたいほど勉強した。特に修士課程でお世話になった教授からは「学問する」ということを教わり、私は初めて勉強する喜びをしみじみと感じた。

私の気づきははささか遅かったのですが、羽高の現役生の皆さんには、伸び代無限大の今、勉強を惜しまないことをお勧めする。将来の可能性を広げ、豊かな人生を歩めるよう頑張ってください。



## しらせ乗船記 北谷 公英（33 回生） 富来・草木

私がしらせに乗船したのは第53次（平成23年度）と54次（平成24年度）南極支援行動の時です。乗員240名、観測隊員最大80名、昭和基地にて越冬している隊員最大40名がこの行動に関係しています。私は物資担当の航海士として2年間勤務しました。この時はコロナが流行していない時のルートであることを了承してください。

しらせは、11月10日に晴海を出港してオーストラリアで補給、観測隊員の乗船を行い南極へ向かい南下します。途中「吠える40度、狂う50度、叫ぶ60度」という暴風圏をぬけた後、反時計回りに進みます。途中には島のような大きな冰山もあるので衝突しないように慎重に航行します。いよいよ昭和基地に向かいます。氷が流れずに固まっている氷原を割りながら進みます。しらせは1m50cmの氷なら5ノットで進めますがそれ以上厚くなった場合はチャージングと言って 300m後進して 11 ノットのスピードで氷にぶつかり乗り上げて割ることを繰り返します。往復路で数千回のチャージングを行います。

私の時は氷が厚く昭和基地への接岸を断念してヘリコプターと雪上車による物資輸送となりました。南極は白い大陸と呼ばれ非常に厳しい環境で仕事も辛い時があります。しかし、日本では見ることのできない風景やペンギン達の愛らしい動きが心を癒してくれました。最初は一日、日が沈みませんが短い夜が始まり、月、星も出てきて夜が長くなります。物資の運搬と人員の交代が終わったら復路となります。しらせが海原に出る頃の夜にはオーロラを見ることがあります。雲と違ってオーロラは星が透けて見え空一杯に淡く光るオーロラは幻想的です。

定年後小型貨物船の一等航海士として製鉄所から日本各地に鉄製品を運ぶ仕事をしています。冬の北海道や水平線に沈む夕日を見ていると南極の光景を思い浮かべ感慨深くなります。もう二度と見れない風景です。



## 母校のみなさん、教職を目指しませんか！

志真（北原）美智子（35 回生）中能登・能登部下

私は千葉県で小学校の臨時的任用教員として忙しい日々を送っている。もう何年も前から、学校は深刻な教員不足に陥っている。きめ細やかな教育体制を望む世論がありながら、教員を目指す若者が少なくなっているからだ。根本的な待遇改善しかないと思うが、今の私からは、自分の経験で得たものを伝えるしかない。

高3で進路を決めた時、羽高の同級生には同じ教職を目指す人がとても多くいて非常に心強かったが、迷いも怠惰も心の隙に芽生え苦しかったことも思い出される。結果、京都の大学に進学し、新たな地で新たな出会いに恵まれることとなった。

あれから四十年。身体能力の衰えは否めないが、若き日の志は、今も変わっていない。それは教員という仕事、それまでに経験したことの全てを教材として活かせる職業だからだ。教員免許の資格取得には、専門の知識は必要だが、大切なのは人としてどう生きるかであり、特に困難に直面したときにどう乗り越えてきたかであると思う。このコロナ禍を教員として経験し感じたのは、この先、学校のあり方そのものが大きく変わっていくかも知れないということ、と同時に、人が成長する場面には、人の関わりが欠かせないということである。

子らは三密を避けよといわれても人の温もりを求めて密になりたがり、マスクのせいで表情が分かりにくいといわれても目を凝らして見つめ、覆われていない部分からその表情を読み取っていた。多くの制限の中、子らの生きる力の力強さから、私は確かな未来への希望をもらったのだ。離任式の日、精一杯の手紙を握りしめ涙をこぼす子に、「大丈夫。何も心配していないよ」と伝えるとその子は大きく頷いて顔を上げた。その様子を見て私は安堵感で一杯になった。

羽高生の貴方、もし人と関わることが嫌いでなければ、学校という職場をお薦めする。一直線でなくとも、やりたいことをやってからでもいい。自分の経験を携えて学校へとやって来てくれたら、こんなに嬉しいことはありません。



## 今後、全国で活躍される羽咋高校の皆さんへ

株式会社パスコ

中央事業部 事業部長

横田 浩（39 回生）志賀・大笹

### 1. 石川と東京の距離感が縮まり、活躍できる場所・チャンスが増加

石川と東京との時間距離の大幅短縮、情報量の増加等により、石川へ多くの方を招くチャンス、他地域へ出かけ活躍できるチャンスが増えています。是非、地元石川で、又は他地域へ出かけて積極的に石川の魅力を伝えるとともに、活躍して頂ければと思います。

#### 1) 北陸新幹線の開通による時間距離の大幅短縮

金沢から東京への移動時間は、私が大学生だった 1990 年頃 JR で約4時間半から 2015 年北陸新幹線の開業で約2時間半へと大幅に短縮された。これにより関東圏から石川への年間観光客数は、約 240 万人から 450 万人へと倍増した。

#### 2) インターネット等の普及による大容量情報の共有

石川と東京の距離を縮めた一つにはインターネットの普及もある。2000 年頃より通信回線は電話回線→アナログ/デジタル回線→光回線→無線通信→5G へと進展し通信量・速度が急増した。インターネットの普及率は1990年代終盤10%→2000年代前半50%→2010年代前半80%と急増した。これらより情報量も格段に増加し、世界中からのリアルタイム情報が共有可能となった。

### 2. 何処に居ても大切にしたいこと（自責の念より）

#### 1) 自分がこれぞと思うことを長く継続すること

自分が信じること、大切だと思うことを少しでも早く見つけ、長く続けて頂きたいと思います。何でも良いと思います。物事を長く続けることにより新たに見えてくるモノ、生み出されるモノがあるため、是非取組んで頂ければと思います。

#### 2) 人との出会いを大切にすること

高校で学び、大学へ進学などにより、将来社会で活躍される皆さん、是非人との出会いを大切に頂ければと思います。SNS での繋がりやリモート会議などが多用される今だからこそ、自分らしく、丁寧に、人との出会いを大切に頂ければと思います。必ず何年か後には直接的・間接的に更なる出会いが広がります。

先行きが不透明で価値観が多様化する現代だからこそ、自分を信じて、自分らしくチャレンジを続けて頂ければと思います。





### 郷里を離れて 宇都宮大学教授・学長特別補佐 大森（平野）玲子（42回生）羽咋・千代

大学進学と共に郷里を離れ、はや30年余りが過ぎました。大学院に進学して研究を続け、就職後は東京に住んでいましたが、30代半ばで宇都宮大学に異動し、現在、夫と子ども達とともに栃木県で生活しています。

宇都宮大学では、教育学部で教員養成に携わりながら、学校現場に出向いて指導助言を行ったり、異動当初は、折しも食育基本法が制定されて間もない時期だったため、学校現場で食育をどのように進めていけばよいか、現場の先生方と議論しあったりと、その職責に身の引き締まる毎日でした。

2016 年度に地域デザイン科学部が新設され、教育学部から異動することになりましたが、学校現場との縁は切れることなく、現在は教育委員会委員として関わっています。また、2022 年度からは学長特別補佐（学生支援担当）として大学運営に携わるようになり、諸先輩方の仕事ぶりを見るにつけ、果たして自分に務まっているのかと、自問を続ける毎日です。

さて、母校の進学先をみると、私が受験生だった30年ほど前と変わりなく、金大や富大への進学者が多いようです。嬉しいことに 2020 年度および 2021 年度に宇都宮大学へ1名ずつ進学してくれました。宇都宮大学の学生は、3割が北関東、3割が東北の出身であり、北陸出身者は少ない状況にあります。石川県からは、大宮で東北新幹線に乗り換える必要があるのも、アクセスが悪いことも一因でしょうか。参考までに私が所属する学科は、公務員志望が多く、令和4年度卒業生の約半数が公務員として就職しました。拙文が母校の在学生の目にも触れることを期待して、在学生の皆様には宇都宮大学を進路選択の一つに据えていただければ嬉しいです。進学した際には、是非、研究室を訪問してください。

末筆になりますが、同窓生ならびに拙文にお目通しくださった皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



### 水源の森のレストランへ

アーティスト／food creation 主宰 諏訪 綾子（47回生）羽咋・若草

それは霊峰白山の麓の、とっておきの森の中で、2日間だけ開店する特別なレストラン。なにがどう特別なのかは、森でフルコースをあげよう人だけが知ることになります。

有名なシェフ、高価なテーブルウェア、世界の選りすぐりの食材を揃えた…レストラン、ではありません。ドレスコードは長靴です。お出迎えは軽トラです。テーブルも椅子も間伐材や端材でできています。メニューは100年に一度のテ

イストです。

そんな“あたらしいラグジュアリー”をご用意して、白山麓の自然の豊かさを熟知している、素敵な方々と共にお待ちしております。水源地の森であじわう、時空を超える体験をご一緒に。

これは、2022年10月に2日間だけ開店したレストランの招待状です。霊峰白山の麓の森を舞台に、地域や職種の垣根を超えた人々で森林課題に向き合う地域共創プロジェクト「QINO」が主宰する「QINO Restaurant」。そのコンセプト／アートディレクターとして、構想から実現まで約2年。ついにそのレストランが開店しました。共創したのは、私たちが「フォレスター（森と共に生きる人）」と、敬意を込めて呼んでいる、林業家、木工家、蒸留家、白山麓の旅館業の方たち。

能登・羽咋で生まれ育ち、金沢で大学時代を過ごした私にとって、白山はこの身体や思考をかたちづくっている水の水源地です。そんな白山麓の豊かな森や、森と共に生きる人々と出会い、こうして共創させていただいたことは、自分自身の源流へ還る旅のような、巡りめぐる素晴らしい体験でした。

ぜひ、水源の森へご一緒に。森の中に開店する「QINO Restaurant」でお会いしましょう。

QINO restaurant <https://qino.jp>



## 人生の折り返し地点、振り返って思う事

坂本（山下）美穂（52 回生）宝達志水・米出

毎年桜の開花宣言が早まっているような気がします。これも温暖化の影響でしょうか。ちょうど一年前の春に次男を出産しました。子どもたちと過ごす中で、この子たちの未来が平和で心豊かな世界であることを願ってやみません。

私は大学進学を機に上京し、東京での暮らしの方が長くなりましたが、東京での子育ては、自分が育ってきた環境と違い過ぎて悩みも尽きません。とはいえ、自分は胸を張って「切り開いてきた」とは言えないゆるい人生なのですが…。

高校まではそれほど選択肢がなく、同じ中学から羽咋高校へ進学した幼馴染も多数。大学は数ある中から「センター試験の点数と二次試験に数学がない」という理由で先生に進められるままになんとか選んで受験。そして、就職先も、就職氷河期と言われる頃でしたのでとりあえず最初に内定をもらえた旅行会社に入社。社員数が3万人近い企業で、新入社員の所属先希望など通りませんでした。それでも、大学を卒業するまでハワイと韓国しか渡航したことなかった私に、想像を超える趣味の世界に触れ、西ヨーロッパのほとんどの国へ行く機会を与えてくれました。仕事でテレビ取材に応じた際には、偶然放送を見た友人がアラスカから数年ぶりに連絡をくれて世界は狭いと驚きましたし、同じ時期に会社の同期や友人が数人赴任していた縁でウクライナを訪れたのも、戦争下の現在では貴重な経験です。

そんな風に、これまでの私の人生はなんとなく偶然の積み重ねで出来てきました。しかし、その時々にかかれた環境で全力を尽くし得られた友人や経験は、何物にも代えがたく、それらが私というものを形作っています。改めて振り返ってみると、羽咋からも広い世界が広がっていたなあ。と感じます。親になって改めて、上京を許してくれた両親への感謝が尽きません。



## シンギュラリティと今

白井 悠太（68 回生）羽咋・東川原

日本は人口減少することが決定しています。もちろん羽咋市、羽咋高校も例外ではありません。羽咋市の人口は2万人を切り、羽咋高校の定員はどんどん減ってきています。それでも僕たち10代、20代はこの日本、石川、羽咋で生きていかなければなりません。

そんな中、今年、ChatGPT の登場によって「シンギュラリティ(AI が人間を超える)」が起きました。世間ではまだ起きていない雰囲気がありますが、羽咋市にある仕事のほとんどが AI でできます。スーパーやコンビニの店員、教員、市役所、病院など、全部 AI でできます。言い換えてしまえば、人がやる必要がない仕事ばかりです。実際に AI がやっていないだけで、この状況自体はシンギュラリティが起きたと充分言えると僕は思います。

人口が減り、今までの仕事もない。そんな中、僕たちはどこに力を注げばいいのでしょうか？ 全人類が考えるべきテーマですが、もしこの文章を読んでいる羽咋高校生がいるのであれば是非、一緒に考えてほしいです。僕もずっと考えていますが、正直、まったく答えは出ていません。ただ、一つだけ意識していることは「今」をひたすらに頑張るということです。

大学進学する上で羽咋高校はとて素晴らしい学校だと思います。ただ、1 つ欠点としては、機械的にただ大学進学を進めるということです。今、あなたがやっていることは大学に進学するためにやっていることなのでしょうか？ 少なからず、僕はそうは思わないし、「今」を生きるために学校で学んでいるものだと思います。だからこそ、今やっていることを一生懸命に頑張ってほしいなと思います。なんでもいいです。勉強、部活、趣味、本当になんでもいいです。ひたすらに頑張ってみてください。そしたらきっと何か大事なものが得られると思います。

偉そうにここまで書いてきましたが、僕自身が一番この時代にビクビクしています。だからこそ、羽咋、羽咋高校というこの繋がりを通して、同士と共に生きていきたいです。

※気になる方は何でも LINE してください。(ID:ch3chohcooh)



羽咋高校関東同窓会 名誉会長 中18 羽咋・島出  
 ふるさと関東羽咋会 名誉会長  
 元共栄大学客員教授

倉部 行雄

〒178-0063 東京都練馬区東大泉6-8-22  
 Tel /Fax 03-3922-1157

卒寿プラス・5 (95才) で、皆様のご多幸を記念します。  
 同窓会出席率より生存率。同窓会、欠席すれば死亡説。

高2 宝達志水・宝達

プラスチック・ガラス試作と精密加工  
 分注器機 開発 制作



不二技研工業株式会社

代表取締役  
 会長

西井 信夫

〒170-0012 東京都豊島区上池袋3-4-11  
 Tel 03-3917-6137(代) Fax 03-3915-1313

生涯現役！ 若人頑張れ！！

高10 羽咋・吉崎



塗装工事  
 防水工事  
 リフォーム工事  
 知事許可第18772号

株式会社 ハクイ 建築

取締役会長 土田 米蔵

〒223-0065 横浜市港北区高田東2丁目16番15号  
 TEL 045(542)0711  
 FAX 045(542)0637  
 携帯 090-3230-4180  
 E-mail: hakui@watch.ocn.ne.jp

若い世代を大切に！俺が俺がにならないこと。

高10 志賀・安津見

株式会社 村田製作所 代理店

岡谷電機産業株式会社 代理店

日立エーアイシー株式会社代理店

ビシエイジャパン(株)代理店

電子部品総合商社



多摩パーツ株式会社

取締役会長 大矢 昭雄

本社：〒214-0031

川崎市多摩区東生田1-13-5 多摩パーツビル  
 Tel 044-900-3801 FAX 044-900-3310

物流部：〒214-0031

神奈川県川崎市多摩区東生田1-13-6  
 Tel 044-900-3801 FAX 044-900-3310

ふるさと関東羽咋会 会長  
 同志社女子大学 名誉教授

高14 羽咋・粟生

商学博士 やま じょう 山上 徹

〒182-0004 東京都調布市入間町3-6-44  
 Tel/Fax 03-3789-3722

ふるさと羽咋の情報をお互いに共有し、発信しましょう！

ライフホーム有限公司

Life Home

宅地建物取引業神奈川県知事免許 (6)21721号  
 電気工事業者神奈川県知事登録 第220042号

代表取締役

宅地建物取引士

松田 建次

〒223-0062横浜市港北区日吉本町2丁目22-23  
 TEL 045-564-3588 FAX 045-561-5902  
 第1級アマチュア無線局 JRI-DPC横浜 日吉  
 mazda\_702@nifty.com

高15 志賀・清水

高16 志賀・上熊野



東浴信用組合

理事

北口 松雄

〒101-8630 東京都千代田区東神田1丁目10番2号  
 Tel (03)5687-2640 (代表) Fax (03)3865-5097  
 URL <http://www.touyoku.shinkumi.jp>

ONE♡NEED

株式会社ワン・ネス

高19 羽咋・釜屋

犬塚 清美

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2丁目4-3-1005  
 TEL & FAX: 03-3967-1156  
 E-mail: kiyomi0770@gmail.com

人生100年の時代！まだまだ楽しく生きたいですね♡

羽咋高校関東同窓会 会長 高20 宝達志水・上田  
 宝達志水関東ふるさと会 副会長  
 いしかわ観光特使

赤 池 清

〒110-0003 東京都台東区根岸3-6-1

根岸拾番館2F (株)羽興

TEL 090-1842-7573

✉ uko@h2.dion.ne.jp



羽咋高校関東同窓会  
会計・IT担当  
いしかわ観光特使

高20 志賀・高浜

## 南 雄二

〒252-0226 神奈川県相模原市中央区陽光台4-10-14  
Tel 080-5956-5979  
✉ yuji.minami@hotmail.co.jp

地域貢献でデジタル推進のボランティアしています。

高20 宝達志水・敷波

## 松沼 医院

内科・小児科・循環器科・呼吸器科

院長 松沼 恭一

〒929-1414 石川県羽咋郡宝達市水町敷波247  
Tel 0767-29-3188 Fax 0767-29-2991

地域医療に頑張っています！

羽咋高校関東同窓会 副会長 高21 宝達志水・上田  
宝達志水関東ふるさと会 会長  
いしかわ観光特使

## 大 崎 繁 一

〒359-1111 埼玉県所沢市緑町4-35-6  
Tel 090-9240-9581  
✉ sfk-oosaki@msc.biglobe.ne.jp

同窓会集う阿呆に來ぬ阿呆同じ阿呆なら來なきゃ損々！

取締役専務執行役員 高25 羽咋・釜屋  
創業研究所・開発企画部・製剤技術開発部  
学術博士

## 山川 富雄



日本ケミファ株式会社

創薬研究所 埼玉県三郷市彦川戸1丁目22番地  
〒341-0005 Tel 048-952-4311 Fax 048-952-0743  
本 社 東京都千代田区岩本町2-2-3  
〒101-0032 Tel 03-3863-1211  
t-yamakawa@chemiphar.co.jp  
http://www.chemiphar.co.jp

関東同窓会25回生の方、是非一度参加してください。

高22 羽咋・千里浜

## オーナー 杉浦 節美

### 風の沢ミュージアム



風の沢ミュージアムは、現代美術館、ギャラリー、  
カフェ、ショップ、里山公園からなる複合施設です。

〒987-2302 宮城県栗原市一迫片子沢外の11

電話：0228-52-2811

http://www.kazenosawa.jp/

MAIL：info@kazenosawa.jp

集まりの悪い22回生！ 年老いた顔を見せ合おう。

株式会社インブループメンツ 高27 羽咋・鶴多

代表取締役社長

## 平 美都江

〒925-0027

石川県羽咋市鶴田町亀田49-1

TEL 0767-22-9514 / FAX 0767-30-1015

Mobil 090-2231-0944

Email taira@taira-improvements.com

これ1冊で  
もめない 損しない  
なぜ、おばちゃん社長は連続的に勃発する  
地獄のような事件から生き残れたのか？

# 相続・事業承継

株式会社インブループメンツ  
代表取締役社長  
平美都江  
監修 弁護士 長原 悟

これから激増する中小企業の相続&承継危機を回避できる

同族会社オーナー必読！

ストーリーから学ぶ

の守り方



# 会社とお金

ダイヤモンド社

高 26 回生のみなさんへ  
【卒業プレ 50 周年記念同窓会】  
日時：令和 5 年 10 月 14 日(土)  
17:00～  
会場：ホテル金沢 TEL 076-223-1111  
金沢市堀川新町 1-1  
★開催案内は 8 月上旬に送付します。  
関東の皆さん、北陸新幹線で、東京から  
2 時間 30 分で金沢に來れます。  
久しぶりの再会を楽しみにしていますよ。  
連絡先：岩網正人 090-8266-1960





とどろき医院

本部同窓会 会長

轟 千栄子

〒925-0027 石川県羽咋市鶴多町切道8-4

Tel 0767-22-7855 Fax 0767-22-0676

昨年創立100周年記念事業へのご協力有難うございました。

高27 羽咋・川原

有限会社 牛勝  
COWIN 牛勝

高27 羽咋・川原

携帯電話 090-8966-0848

代表取締役

番匠 久雄

ばん しょう ひさ お



□本社/本店 〒925-0033 石川県羽咋市川原町テ 27-3

Tel 0767-22-0029 Fax 0767-22-8429

□カウイン牛勝(アルブラザ鹿島) Tel 0767-76-2304

経団連会員

高25 宝達志水・敷浪

いしかわ観光特使

(株)ラングスジャパン  
代表取締役 小林美紀



〒155-0032 東京都世田谷区代沢4-34-15

03-5430-9181

info@rangsjapan.co.jp



宝達志水・杉野屋

高下謹彦法律事務所(第一東京弁護士会)

石川県人会 副会長

金沢大学教育学部付属高等学校同窓会

関東支部支部長

第一東京弁護士会 平成26年度副会長



弁護士

高下 謹彦

〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目8番5号

ニューギンザビル10号館4階

TEL.03-5568-6655 (代)

姉と妹・いとこ2人は羽咋高校卒業生です。

いしかわ観光特使

高27 宝達志水・上田

羽咋高校関東同窓会 副会長 兼 事務局長

宝達志水関東ふるさと会 事務局

稲荷第一町会 理事(総務部長)

赤池 典充

〒340-0003 埼玉県草加市稲荷5-35-36

TEL 090-2334-9276 MAIL:ntsk-aka@outlook.com

笑顔で声かけを！わが家・わが地域・わが職場で！

石川県知事免許(5)第3606号

(株)辰実不動産

二級建築士  
石川県地震被災建築物応急危険度判定士

営業 三宅 悠也



〒925-0032 羽咋市東川原町柳橋73-2  
TEL 0767(22)5789 FAX 0767(22)2133  
HP 090-7743-6711  
E-mail: miyake@k-tatumi.jp  
ホームページ: http://www.k-tatumi.in

空き家の管理・手放したいとお考えの方サポートします。

山本 孝夫 (高32: 宝達志水・杉野屋)

喜多方ラーメン坂内 川口東口店



京浜東北線

川口駅東口徒歩5分

営業時間(年中無休)

月曜 11:00~22:00

火~土 11:00~22:30

日祝日 11:00~21:30

喜多方の味を継承しつつ

手作りの味を心掛け

日々営業しております。

お近くにお越しの際には

是非お立ち寄りください。

アルバイト募集

時間: 11時~21時30分

・時間は相談します。

・特に17時~21時30分

ホールスタッフ募集

時給: 1,100円から

・学生大歓迎

田舎から来た方

大歓迎です。

ラストオーダー21:30

ラストオーダー22:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

ラストオーダー21:00

不動産屋さんの空き家管理

~空き家でお困りのご実家など、建物から敷地までの管理を行っております~

月単位から  
年単位まで

レポートや写真で  
お父兄のお家の様子  
を行います

空気の入れ換え  
から除草も

玄関内外にも  
ご目録表にのります



Instagram・ホームページよりお気軽にお問合せください

生まれ育った故郷の景観を守るために

ふるさと納税で空き家になっている

ご実家の維持・保全を行いませんか?



株式会社 辰実不動産 HP



# 令和5年度 羽咋高校関東同窓会 第64回 総会開催のお知らせ

日時：9月23日（土）

受付：11時30分～

総会：12時～12時40分

講演会：12時50分～13時50分

懇親会：14時～16時

会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館）

千代田区九段北4-2-25

市ヶ谷駅〔A1〕から徒歩1分

★井上政人校長先生、宮寄宏正先生、佐藤秀嗣先生が出席されます。

お世話になった皆さん、是非ご出席下さい。

★今年もオンラインZoomによる参加ができます。Zoom参加希望者は、事務局へメールで参加の連絡をお願いします。

\*事務局：ntsk-aka@outlook.com

後日、参加用URLをメールします。

★総会終了後には、Zoom懇親会を予定。  
近い卒業年度でグループに分かれ、オンライン交流（飲み会）が楽しめます



講演者：株式会社 インサイトリサーチ

代表 松永 秀和 氏

（19回生 宝達志水・敷浪）

演題：ヒマラヤに咲く青いケシ

略歴：

1968年 羽咋高校卒業

1973年 京都大学文学部哲学科卒業

2002年 市場調査会社

株式会社 インサイトリサーチ 設立

講演内容：

2013年以降、コロナ禍の2年間を除き、毎年ヒマラヤ山麓に通ってきた。標高は4000mを超え、空気も平地の半分になるが、種々の高山植物が咲き乱れる。

その中で青いケシはひととき輝きを放っている。これまで見た青いケシは60種に上る。中には日本人として初めて目にした花もある。厳しい環境で生育する可憐な花々を堪能していただければ幸いである。

参照サイト：

<http://www.insite-r.co.jp/Flower/>

## 【編集後記】

今号より本誌題字の『絆』が、羽咋高校同窓生である書家の桜鱗さんから揮毫いただいたものへと刷新の運びとなりました。

また、今回も会報「絆」第18号発刊に際し、関東同窓会会員はもちろんのこと、多方面からご協力いただきましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

在校生のみなさんにも、是非お読みいただければと願っております！！

事務局 赤池典充（27回生）